

第2章 市民の健康状況

第1節 保健統計からみた市民の健康

(1) 人口と年齢構成の推移

秋田市の人口は、一貫して増加を続けてきましたが、平成14年をピークに減少に転じました。平成17年1月の市町合併により一旦人口は増加したものの、平成18年においても減少傾向は続いています。

年齢3区分別人口割合の推移をみると、昭和50年代以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高齢層の増加から、0歳から14歳までの年少人口割合は低下し、65歳以上の老年人口割合は上昇しており、平成9年以降、老年人口割合が年少人口割合を上回っています。さらに15歳から64歳までの生産年齢人口割合は年々低下し、平成19年では64.7%と低下傾向が続いています。

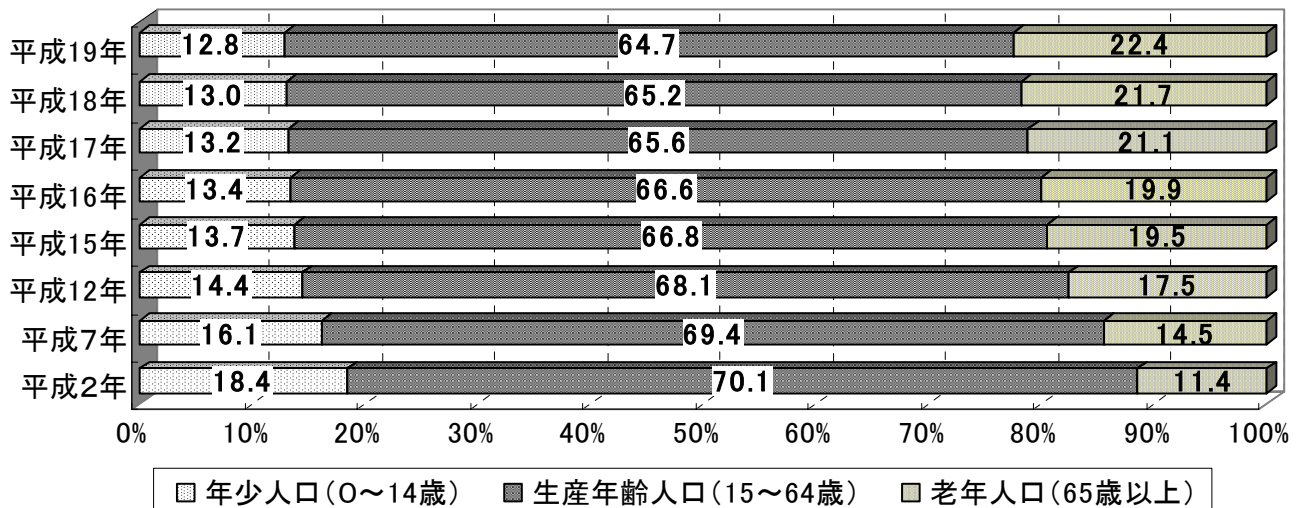
表1 秋田市の人口の年次推移

単位：人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	
総人口	302,362	311,948	317,625	318,046	318,017	333,109	331,834	329,452	
(再掲)	年少人口 (0~14歳)	55,508	50,169	45,655	43,465	42,771	43,879	43,221	42,230
	生産年齢人口 (15~64歳)	212,044	216,535	216,200	212,513	211,845	218,498	216,302	213,115
	老年人口 (65歳以上)	34,509	45,117	55,689	61,987	63,320	70,371	71,950	73,746
	年齢不詳	301	127	81	81	81	361	361	361

資料：統計から見た伸びゆく秋田市 秋田市企画調整部情報政策課 (各年10月1日現在)

グラフ1 年齢3区分別人口割合の年次推移

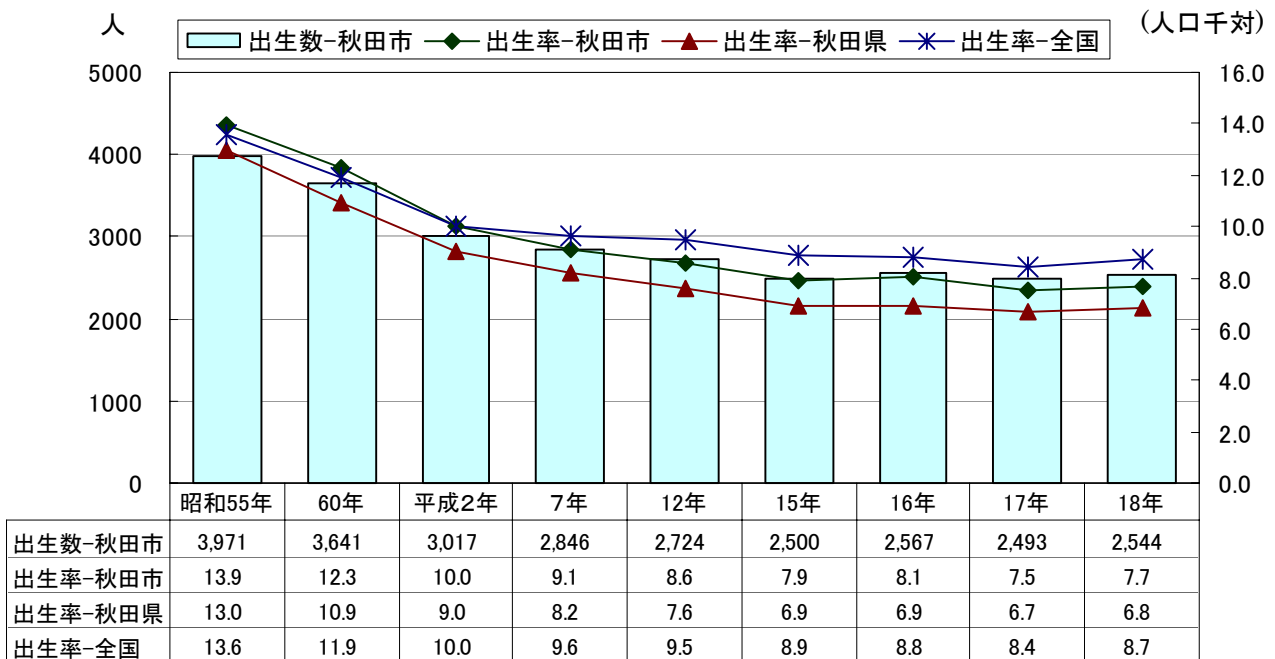


(2) 出生と死亡の動き

秋田市の出生数は、昭和46年から49年の第2次ベビーブーム期以降、減少傾向が続いていましたが、近年は、2,500人前後で推移しています。出生率は、秋田県の値よりも高いものの、全国平均を下回る状況が続いています。

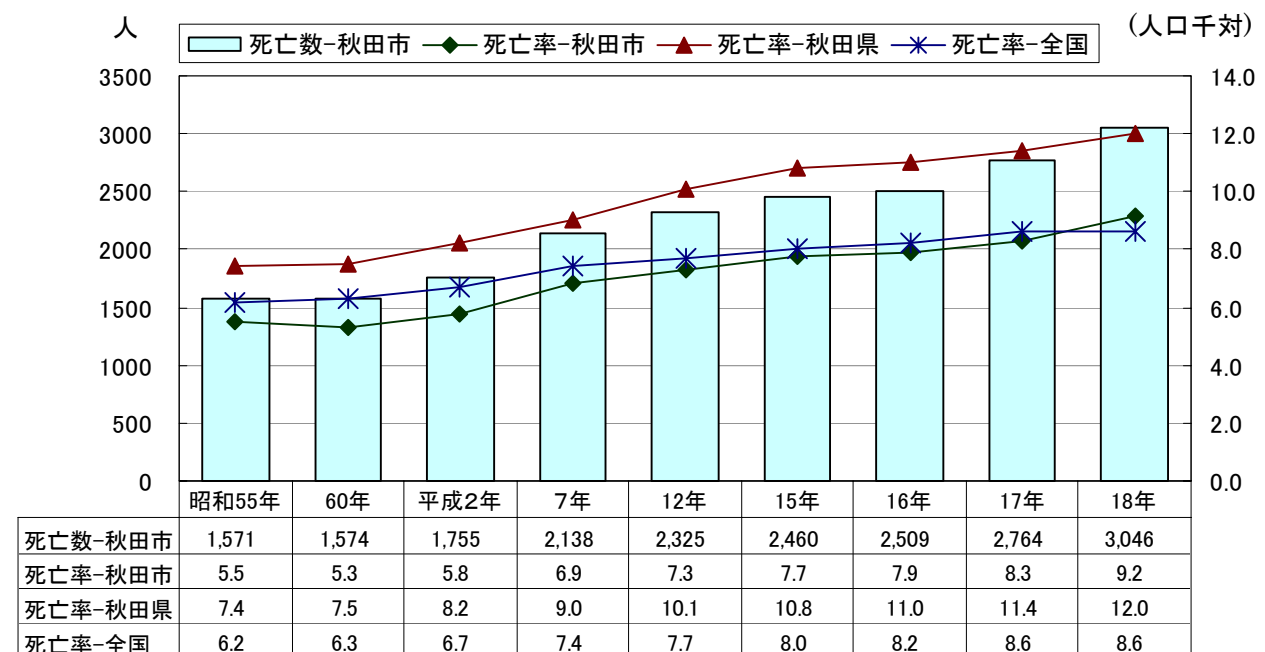
死亡数は、昭和40年以降、ほぼ一貫して増加を続けており、平成18年は3,000人を超えました。死亡率は、これまで秋田県、全国よりも低い率で推移してきましたが、平成18年は全国平均を上回っています。

グラフ2 出生数と出生率の年次推移



資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

グラフ3 死亡数と死亡率の年次推移

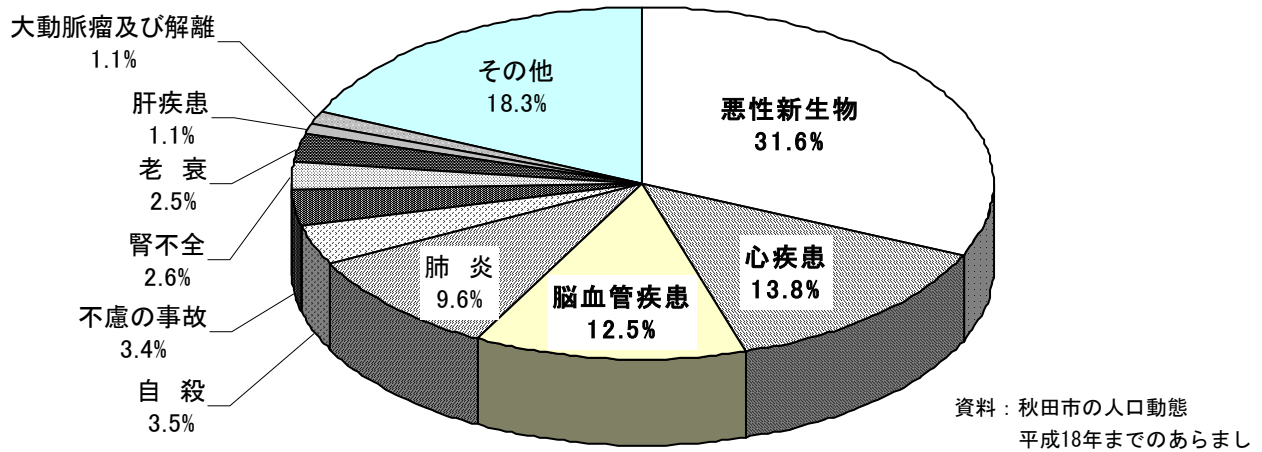


資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

(3) 主要死因別疾患割合

平成18年の秋田市における死亡数は3,046人で、死因の第1位が悪性新生物（がん）で962人、第2位が心疾患（心臓病）で420人、第3位が脳血管疾患（脳卒中）で382人となっており、いわゆる生活習慣病とされる3大死因で全死因の57.9%を占めています。

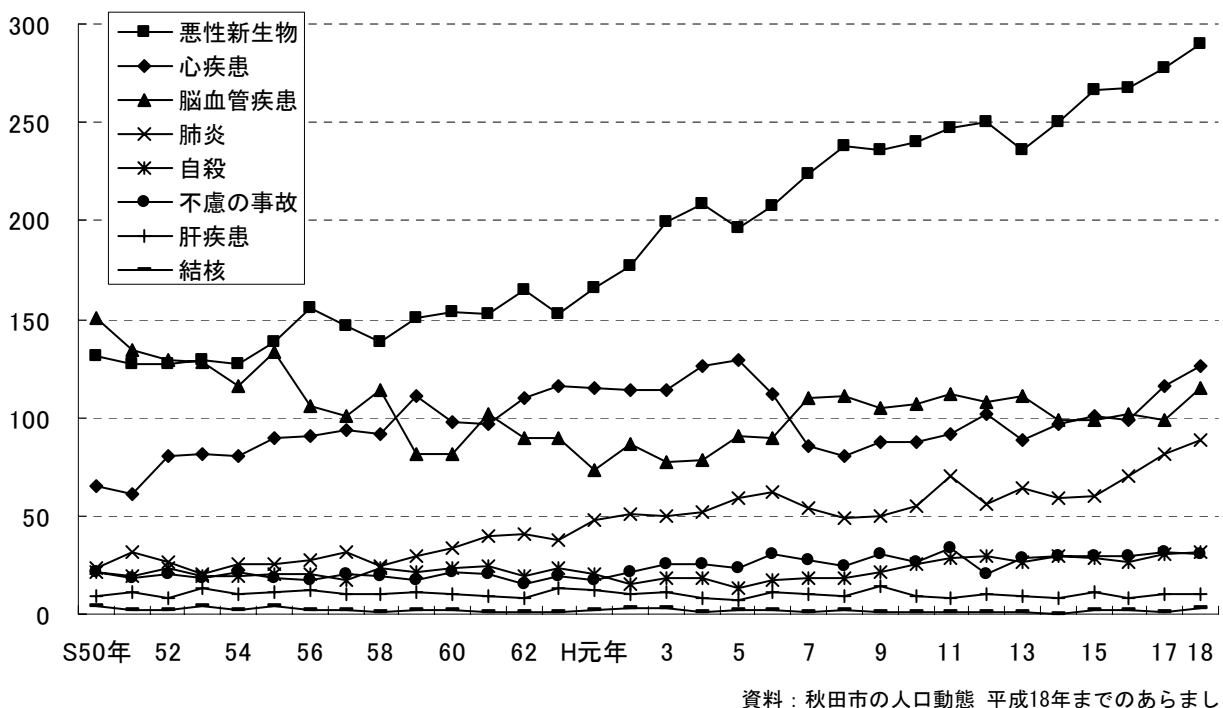
グラフ4 主要死因別疾患割合（平成18年）



(4) 主要死因別死亡率の年次推移

秋田市における主な死因別死亡率の推移をみると、悪性新生物が昭和53年以降、死因順位第1位となり、ほぼ一貫して上昇の傾向をみせています。心疾患は昭和62年に2位となり、その後も上昇傾向にありましたが、平成6、7年に急激に低下しました。平成9年からは再び上昇傾向となり、平成17年、18年は心疾患が2位となっています。昭和52年まで死因順位第1位であった脳血管疾患は、昭和50年以降、着実に低下していましたが、平成5、7年に上昇し、近年は横ばいで推移しています。

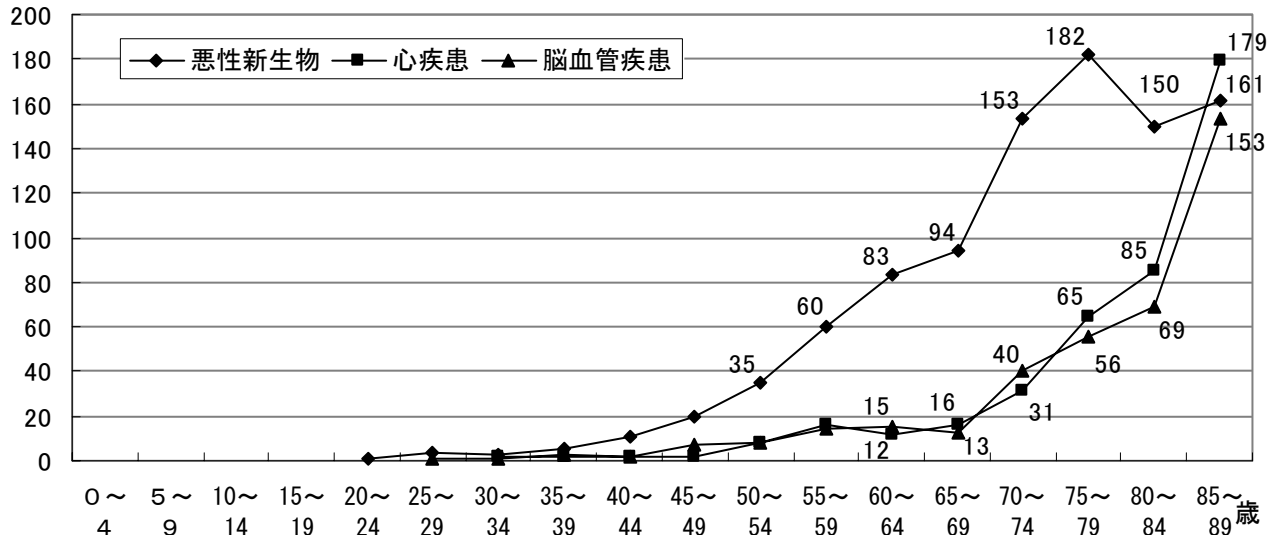
グラフ5 主要死因別死亡率の年次推移（人口10万対）



(5) 3大死因の年齢階級別死亡数

秋田市における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の3大死因の死亡数を年齢階級別にみると、心疾患と脳血管疾患は、70歳代後半から増え始め、80歳代後半にピークを迎えています。悪性新生物は、50歳代前半から増え始め、70歳代でピークとなっています。

グラフ6 3大死因の年齢階級別死亡数（平成18年）

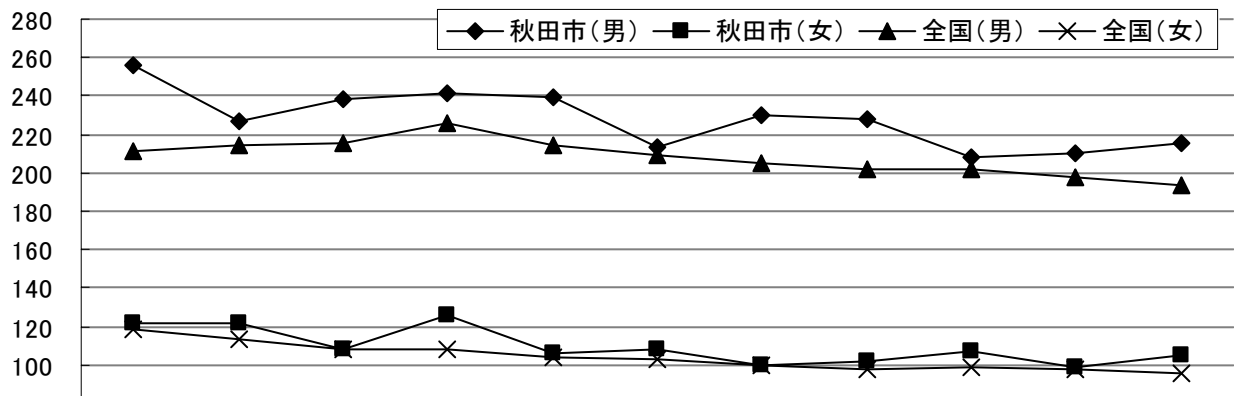


資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

(6) 悪性新生物の年齢調整死亡率の年次推移

悪性新生物の年齢調整死亡率^(注1)の推移をみると、男性は昭和55年から60年にかけて低下の傾向にありましたが、近年は横ばい傾向を示しており、この間一貫して全国平均を上回っています。女性は緩やかな低下傾向にあるものの、男性と同様に全国平均を上回っている状態です。

グラフ7 悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移



	昭和55年	60年	平成2年	7年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
秋田市(男)	255.6	226.5	237.9	241.5	239.7	213.2	230.5	227.5	208.5	210.0	215.1
秋田市(女)	121.4	121.8	108.5	125.8	106.1	107.7	99.8	102.1	106.6	98.3	105.2
全国(男)	210.9	214.8	215.6	226.1	214.0	209.4	205.1	201.7	202.0	197.7	193.6
全国(女)	118.8	113.1	107.7	108.3	103.5	102.5	99.7	98.1	99.2	97.3	95.8

資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

注1) 年齢調整死亡率

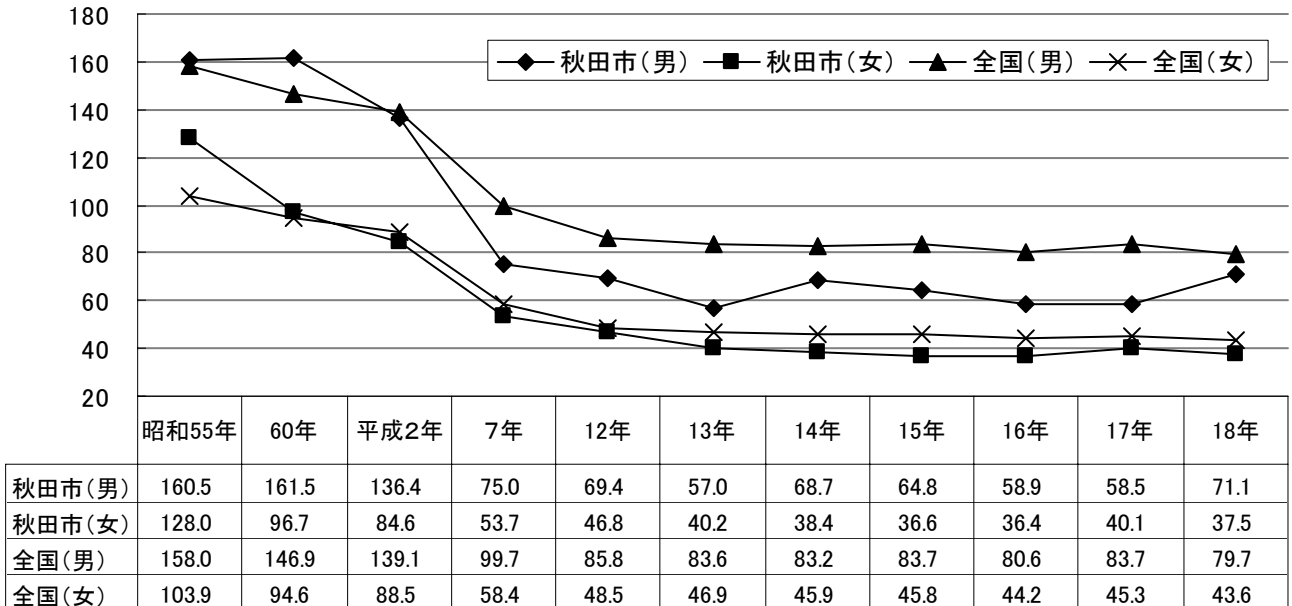
年齢調整死亡率とは、人口の年齢構成の影響を調整して求める死亡率をいう。

死亡率（粗死亡率）は、死亡数／人口で単純に求められるが、高齢者の多い地域では死亡率が高くなる傾向があり、この計算方法では地域での単純な比較に適していないため、一般的には「昭和60年モデル人口」を用い、地域の人口年齢構成が一定のものと仮定して再計算した死亡率である。

(7) 心疾患の年齢調整死亡率の年次推移

心疾患の年齢調整死亡率の推移をみると、男女とも平成12年頃まで低下傾向にあったものの、近年は横ばい傾向となっており、全国平均よりも低い値で推移しています。

グラフ8 心疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移

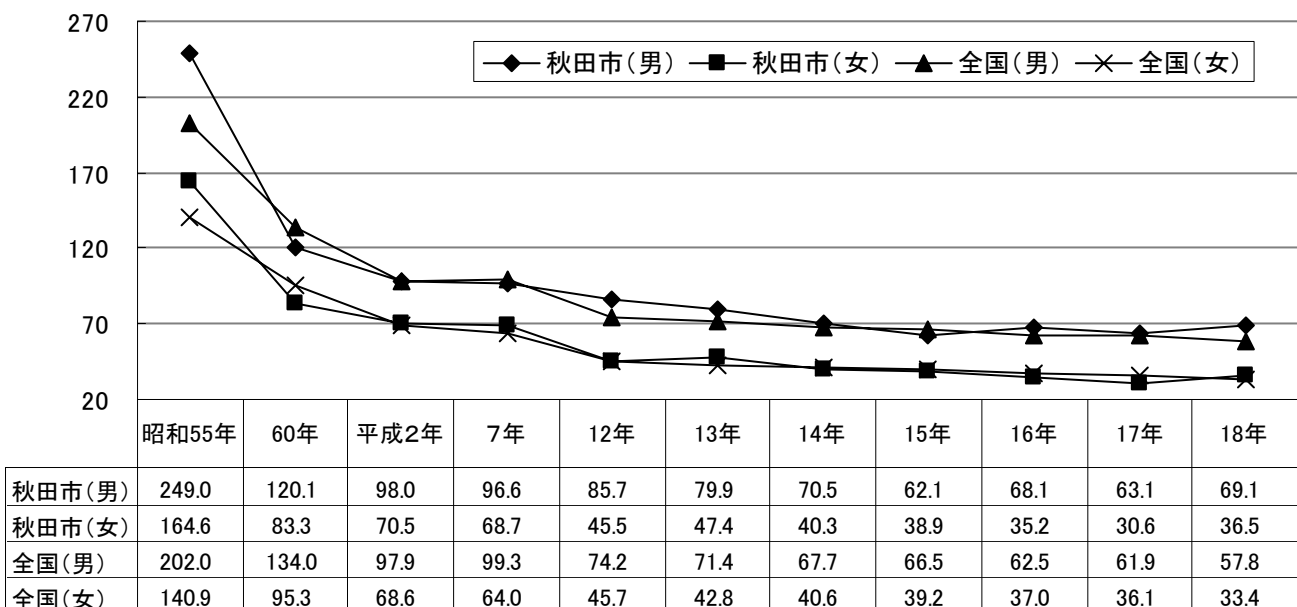


資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらまし

(8) 脳血管疾患の年齢調整死亡率の年次推移

脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移をみると、男女ともに低下傾向にあったものの、近年は横ばい傾向となっており、全国平均とほぼ同じ値で推移しています。

グラフ9 脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移

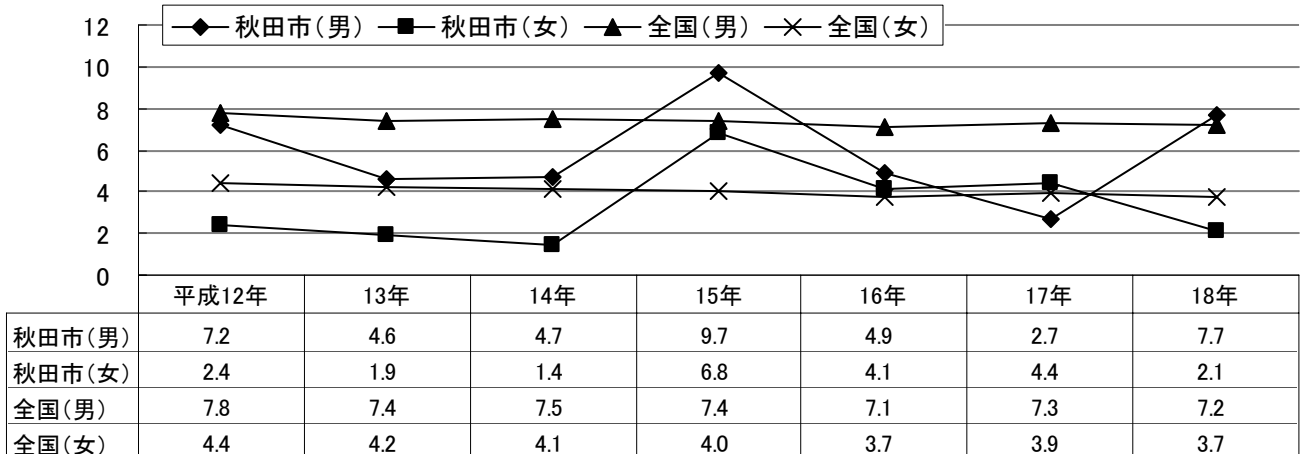


資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらまし

(9) 糖尿病の年齢調整死亡率の年次推移

糖尿病の年齢調整死亡率の推移をみると、男女ともに平成14年まで全国平均よりも低い値で推移していたものの、平成15年に上昇し、全国平均の値を上回りました。その後、低下に転じましたが、男性は平成18年に再び上昇しています。

グラフ10 糖尿病の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移

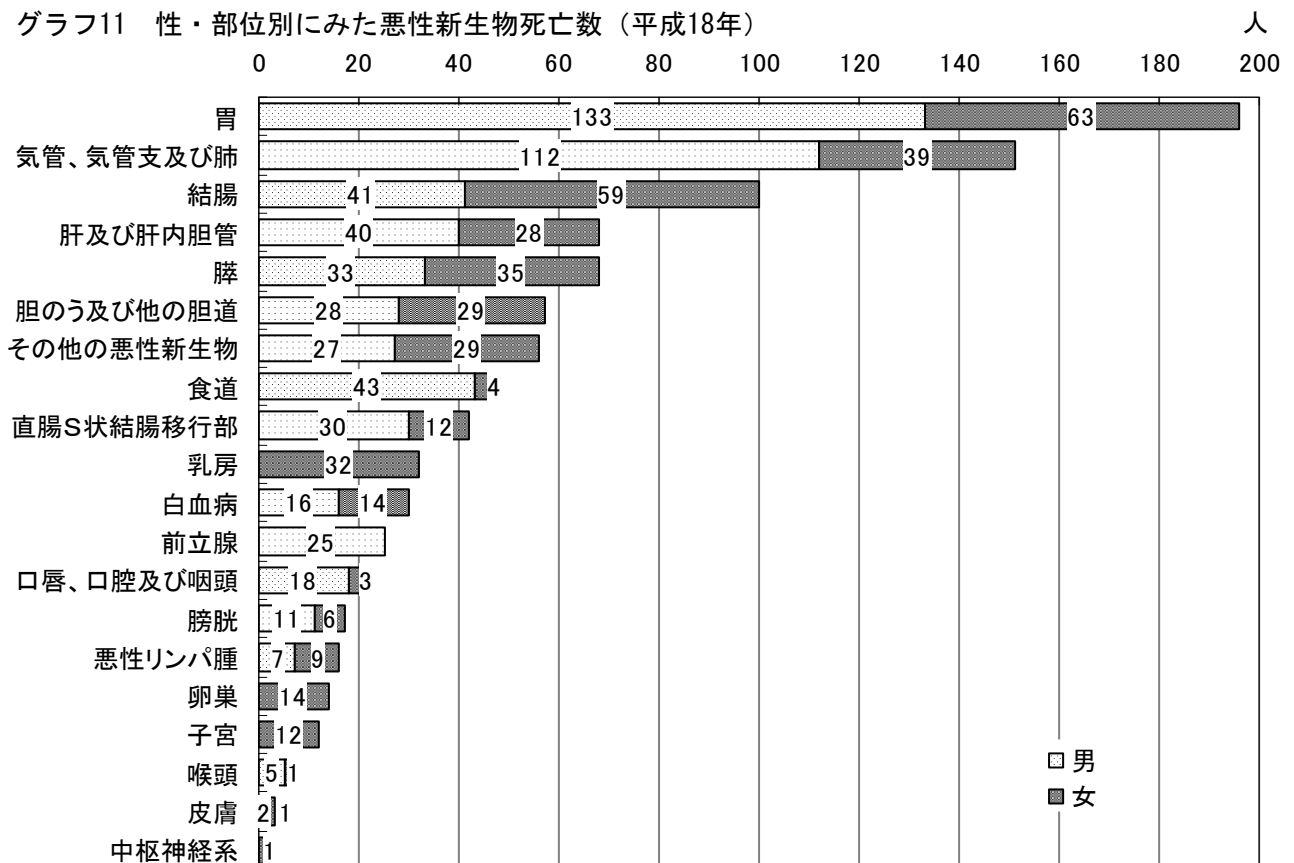


資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらまし

(10) 性・部位別にみた悪性新生物死亡数

秋田市における悪性新生物による死亡数を性・部位別にみると、胃がんによるものが196人（男133人、女63人）と最も多く、全体の20.4%（男23.3%、女16.1%）を占めています。続いて肺がん151人（男112人、女39人）、結腸がん100人（男41人、女59人）などの順となっています。

グラフ11 性・部位別にみた悪性新生物死亡数（平成18年）

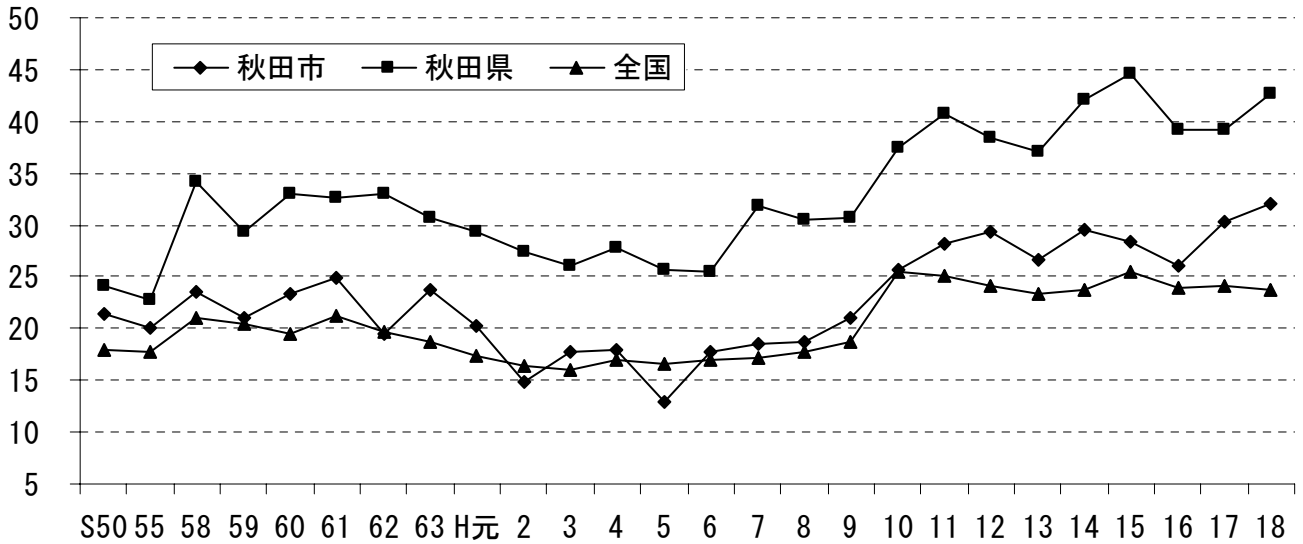


資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらまし

(11) 自殺死亡率の年次推移

自殺死亡率の推移をみると、秋田市、秋田県、全国ともに昭和62年以降、低下の傾向にありましたが、平成7年以降、上昇傾向に転じています。秋田市は、一貫して秋田県の値を下回っているものの、概ね全国平均を上回って推移しています。

グラフ12 自殺死亡率（人口10万対）の年次推移



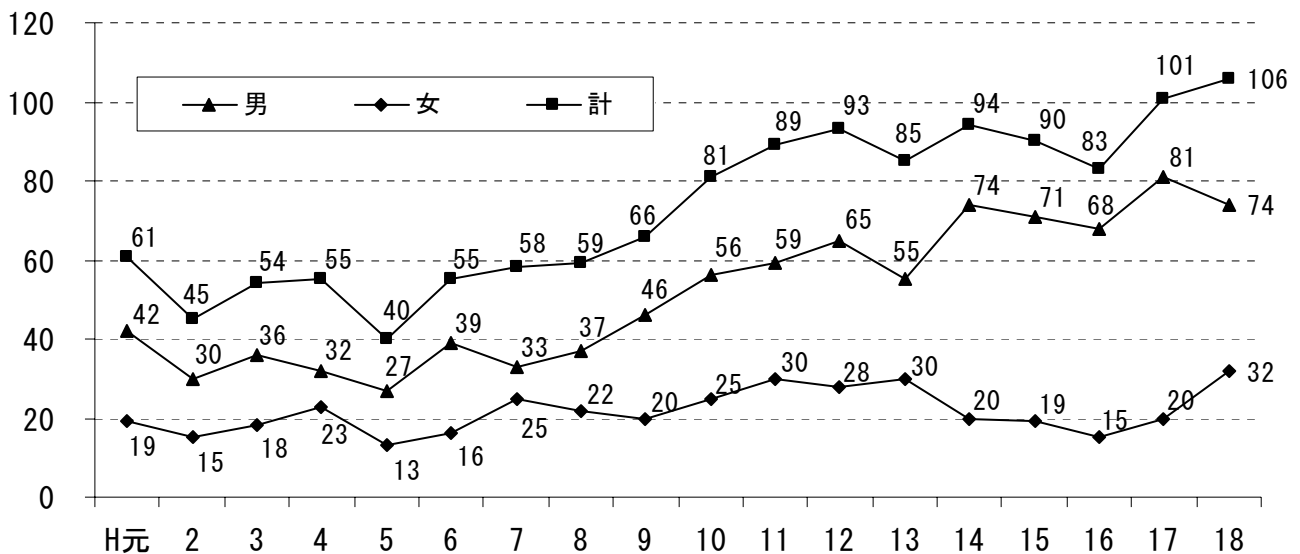
資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

(12) 自殺死亡数の年次推移

秋田市における自殺死亡数の推移をみると、平成6年以降の上昇傾向が続いており、平成18年の自殺死亡数は106人で、17年から5人増加しています。自殺死亡数を男女別にみると、平成元年以降、一貫して男性が女性を上回っており、平成18年では男性の自殺死亡数が全体の69.8%を占めています。

グラフ13 自殺死亡数の年次推移

単位：人



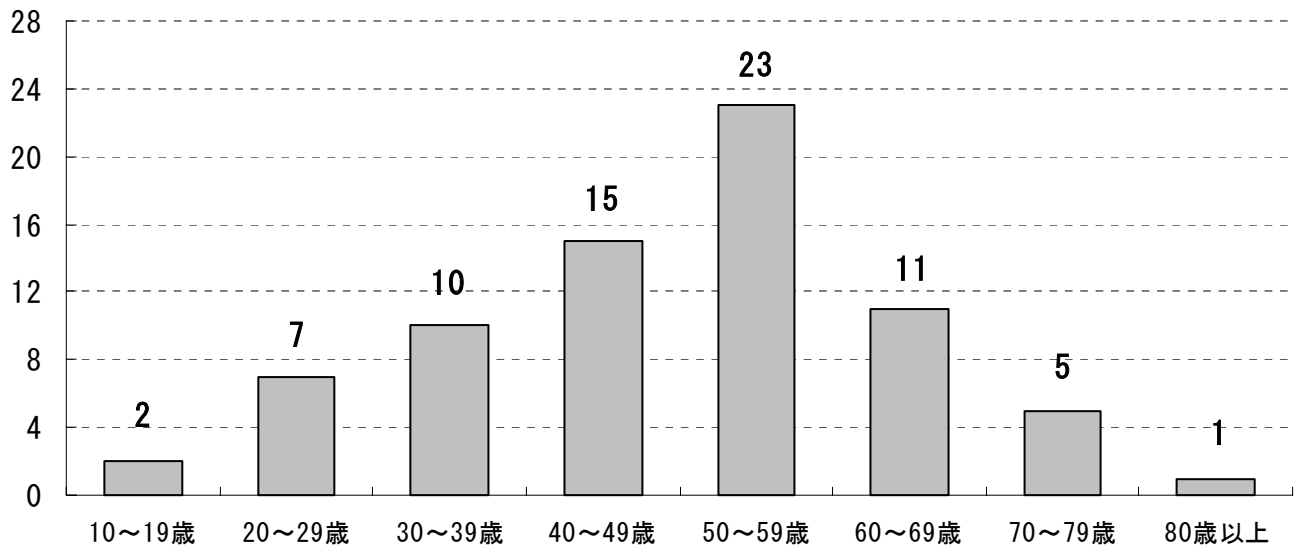
資料：秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

(13) 年齢階級別にみた自殺死亡数

平成18年の秋田市における自殺死亡数を年齢階級別にみると、男性では50歳代が23人と最も多く、全体の31.1%を占めています。女性では70歳代が8人と最も多く、60歳以上で全体の50%を占めています。

グラフ14 年齢階級別自殺死亡数, 男 (平成18年)

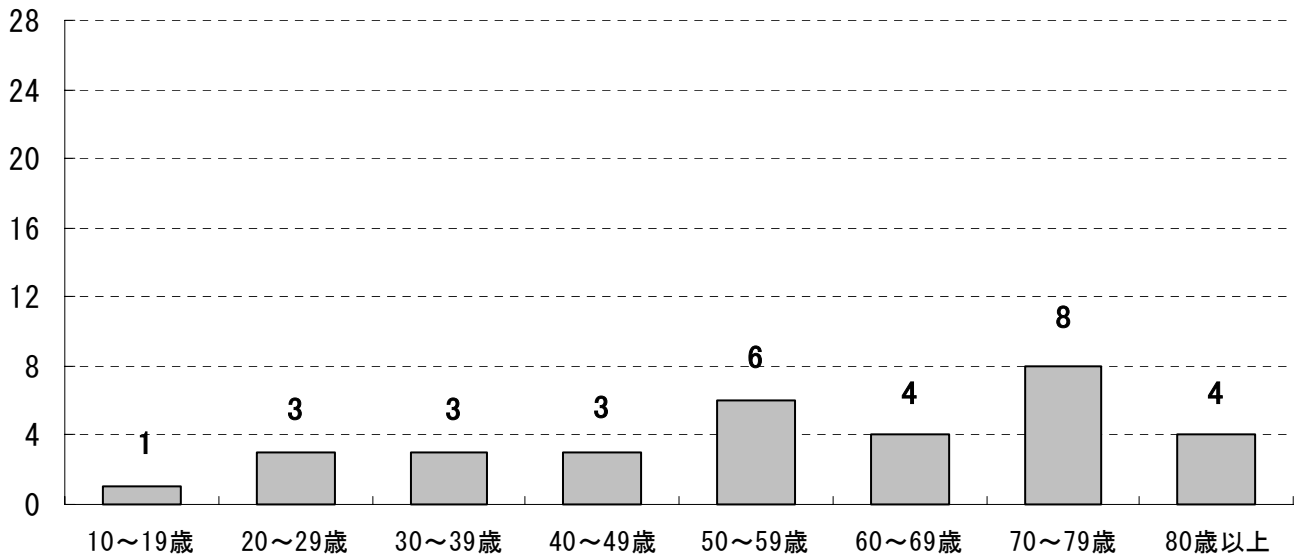
単位: 人



資料: 秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

グラフ15 年齢階級別自殺死亡数, 女 (平成18年)

単位: 人



資料: 秋田市の人口動態 平成18年までのあらし

(14) 1人当たりの老人保健医療費

(単位：円)

	秋田市	秋田県	全国
平成14年度	699,000	676,179	736,512
平成15年度	757,000	704,940	752,721
平成16年度	749,000	728,520	780,206
平成17年度	828,000	754,065	821,403
平成18年度	833,000	—	833,682

1人当たりの老人保健医療費は、平成14年度以降、秋田市、秋田県、全国とも、増加傾向にあります。

※自己負担金、入院時食事代を除く。

※平成16年度の秋田市は、旧河辺町、旧雄和町分を除く。

(15) 1人当たりの年齢別診療費（国民健康保険被保険者）

(単位：円)

	平成15年5月	平成19年5月	比率
0歳～4歳	13,383	14,565	108.8%
5歳～9歳	8,887	8,478	94.2%
10歳～19歳	4,143	5,243	126.6%
20歳～29歳	5,471	5,529	101.1%
30歳～39歳	11,161	11,534	103.3%
40歳～49歳	14,092	15,136	107.4%
50歳～59歳	19,848	22,340	112.6%
60歳～69歳	26,491	27,604	104.2%
70歳以上	52,409	42,643	81.4%

平成15年5月診査分と平成19年5月診査分の被保険者1人当たりの診療費を比較すると、平成18年度に診療報酬のマイナス改定があったにもかかわらず、5歳～9歳、70歳以上を除いたすべての年齢階級において増加しています。

(「秋田県国民健康保険団体連合会」診査確定額)

(16) 1人当たりの疾病分類別診療費（国民健康保険被保険者）

(単位：円)

	平成15年5月	平成19年5月	比率
循環器系	7,554	8,048	106.5%
新生物	3,950	3,499	88.6%
消化器系	3,758	3,491	92.9%
精神障害	2,779	2,758	99.2%
腎尿路生殖器	2,299	1,973	85.8%
筋骨格系	1,939	1,825	94.1%
内分泌	1,651	1,578	95.6%
神経系	1,191	1,485	124.7%
呼吸器系	1,353	1,278	94.5%
眼疾患	994	947	95.3%
損傷、中毒	794	805	101.4%

1人当たりの疾病分類診療費では、平成15年5月、平成19年5月ともに循環器系疾病の医療費が高く、また、平成15年と19年を比較すると、神経系疾病、循環器系疾病等の診療費が増加しています。

(「秋田県国民健康保険団体連合会」疾病統計)

第2節 意識調査からみた市民の健康

(1) 普段健康と感じている人

自分の健康状態について、『健康である』（「非常に健康」、「どちらかといえば健康」）と回答した人の割合は70.5%で、平成14年度に実施した同様の調査結果の72.2%を1.7ポイント下回り、若干ながら『健康である』という意識が低下していることがわかります。

年齢別にみると、『健康である』と回答した人の割合は、年齢をおうごとに低下し、65歳以上では、男性の42.9%、女性の44.5%の人が『健康ではない』（「どちらかといえば健康ではない」、「健康ではない」）と感じています。

【平成18年度 市民健康意識調査（16歳以上）】



(2) 普段健康のために気をつけていること

普段健康のために気をつけていることについて、「食事」と回答した割合が58.5%と最も高く、以下、「運動」30.9%、「こころの健康」23.8%、「お酒」6.2%、「たばこ」4.1%などの順となっています。

男女別にみると、男性で「運動」、「お酒」、「たばこ」に気をつけている割合が高く、女性で「食事」、「こころの健康」に気をつけている割合が高くなっています。

また、普段健康に「気をつけていない」と回答した人が17.7%となっており、男性では2割を超える結果となっています。

【平成18年度 市民健康意識調査（16歳以上）】

